

教点連ニュース 第2号 No.6

平成20年7月30日

・ 秋の教点連セミナー

理事その他と調整しました結果、秋のセミナーの日時と場所が次のように決まりました。研修テーマについては、8月30日（土）に開催を予定しております理事会で決定いたします。「どんな内容がいいか」について皆様のご要望を事務所までお寄せください。

また、セミナーにぜひご出席くださいますよう日程の調整をお願いいたします。

【平成20年度第2回セミナー】

日時：平成20年11月30日（日）午後1時から

場所：IMY ホール6階 第3会議室

名古屋市東区葵3-7-14

TEL 052-930-3922

交通：地下鉄東山線「千種」下車 徒歩5分

・ 渡海文部大臣に要望書

文部科学省

大臣 渡海紀三朗様

NPO法人全国視覚障害児童・生徒用教科書

点訳連絡会 理事長 田中徹二

点字教科書の普及に関する要望

時下ますますご清勝のこととお慶び申し上げます。

平素は盲学校児童・生徒用点字教科書を、発行販布して下さっておりますことに感謝申し上げます。

ところが、この度成立しました「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」によりますと、「教科用特定図書」の中に点字教科書が入っております。これは一般学校で学ぶ盲児童・生徒のための教科書で、教科書製作会社が発行しております検定教科書すべてが対象になります。

盲学校用点字教科書は、その中の一種類を原本としておりますために、一般学校で学ぶ児童・生徒に充当することができません。したがって、すべての検定教科書を点字化しなければ、一般学校で学ぶ児童・生徒に点字教科書を供給することは不可能になります。

私どもとしましては、この点字教科書を製作する体制を1日も早く確立していただきたく、以下の点を要望いたします。

「点字教科書の普及に関する検討委員会」を至急立ちあげてください。

以上

・ 文科省教科書課企画係との話し合い

去る7月18日午前10時から、文科省教科書課企画係と話し合いを持ちました。

〈出席者〉

文科省：矢崎雅之教科書課課長補佐、高見英樹教科書企画係長、池尻和良特別支援教育課調査官

教点連：高橋秀治副理事長、岩井和彦副理事長、込山光広事務局長、高橋実理事、加藤俊和理事、田中徹二理事長

〈内容〉

渡海文部大臣あてに、教点連が7月1日付けで提出した要望書の中の、「点字教科書の普及に関する検討委員会」を至急立ちあげてくださいについての確認。

〈結果〉

「拡大教科書の普及に関する検討委員会」がすでに立ちあがっているため、点字教科書に関しても、その委員会の中で検討したい。→ 拡大の中では十分な検討ができないため、あくまで点字の委員会は別に立ちあげてほしい。→ どうするか検討するので待つてほしい。

そのほか、デジタルデータの提供、点字教科書の作成、統合教育を受けている点字教科書使用児童・生徒の実態調査について、それぞれ情報交換し要望しました。

・ 平成20年度第1回セミナー報告

平成20年度第1回セミナーを開催

－「点訳校正技術と最近の情勢分析」－

6月28日（土）午後1時から4時半まで、午前中の総会に引き続き、平成20年度教点連の第1回セミナーが開かれました。セミナー開催場所の日本点字図書館3階の多目的室は、60余名の参加者で盛況でした。

セミナーは3部構成で、高橋秀治副理事長の司会で進められました。開会の挨拶で高橋実理事は「地域の学校で学ぶ視覚障害児童・生徒にきちんとした学習環境を整えることは、社会の責務であること」を強調しました。

以下、セミナーについて簡単に報告します。

第1部 「点訳校正技術の向上に向けて」

点字教科書の校正、特に、中学社会科教科書〔地理、歴史、公民〕の問題点について、飯田三つ男さん（視覚障害者支援総合センター）、白井泰晴さん（東京点字出版社）、甲賀佳子さん（日本点字図書館）の3人の方に発表していただきました。それぞれ点字・点訳教科書作成に具体的に関わる中での、様々な工夫や留意点について話されましたが、詳しいことは、当日のレジュメを参照してください。

飯田さんは、小学校の社会科と中学校の地理について「一般の教科書には図やレイアウトなどが、どのように書かれているか、できるだけ忠実に伝えたい」と心がけているそうです。

白井さんは、盲学校の点字教科書・中学社会科（歴史）の漢字の読み方について「時代により変わるものがある。独特な読みもある。また、姓名間に「の」を入れるかの問題もある。それらのことに関する広い知識が必要である」と話されました。

甲賀さんは、中学社会科・公民について「視覚障害児にとって読みやすく、触読の力を高めるための資料を提供したい」と話されました。

第2部 「最近の拡大教科書製作状況（教科書バリアフリー法との関連について）」

宇野和博さん（筑波大付属視覚特別支援学校）ご講演

宇野さんは、自らが拡大教科書に関わるようになった経緯を話された後、拡大教科書の現状について「文科省の調べでは地域の学校で拡大教科書を必要としている子どもたちが1745人いると言う。しかし、拡大教科書づくりはボランティアに任かされており、ニーズの1/3程度に対応するのがやっとだ。もうパンク状態で、ボランティアは悲鳴を上げている」と語りました。

また、「教科書バリアフリー法」について、国や教科書会社に一定の責任を負わせたことを、これまでの運動の成果として評価した上で、この法律で実現しなかった（積み残した）こととして、（1）教科書出版社による拡大教科書発行は、義務ではなく、努力義務とされたこと、（2）一般の高校における拡大教科書や点字教科書の価格差保障が実現できなかったこと、そして、（3）理療科・保健理療科における音声教科書の費用補助が落ちてしまったこと、の3点を上げていました。今後取り組むべき重要な課題であるといえるでしょう。

第3部 「特別支援教育について」

池尻和義さん（文化省特別支援教育課）ご講演

ここ10数年の社会的状況の変化の中で、特殊教育から特別支援教育への流れができたこと、特別支援教育では児童・生徒、個人個人のニーズに応じた教育・支援が必要とされており、その実現を目指している。そのためには、（1）盲学校が地域の学校と連携すること、そして、（2）盲学校がしっかりとセンター的な機能を果たすこと、（3）教師が視覚障害児教育に関する高度な専門性を獲得すること、などが求められていると話されました。

・ 平成20年度 第1回総会及び第1回理事会報告

〈平成20年度総会〉

1. 日時：平成20年6月28日（土）午前11時～12時
2. 場所：日本点字図書館 3階多目的ホール
3. 出席者数：14施設・団体、2個人、委任状12、計28
（会員総数23団体・施設、5個人、計28）

4. 審議事項

- ① 平成19年度事業報告および決算の承認
- ② 平成19年度監査報告
- ③ 平成20年度事業計画案および予算案の承認

5. 議決の結果

審議事項①②については別紙のとおり報告され、以下の意見交換、質疑が行われ、会一致で承認された。

〈平成20年度第1回理事会〉

日 時：平成20年6月28日 12:00～13:00

場 所：日本点字図書館 3階会議室

出席者：高橋（秀）、高橋（実）、加藤、野々村、長岡、込山、古谷、三上

理事7名、監事1名 委任状（理事3名、監事1名）

第1号議案 2008年2月29日付「文部科学省への要望書」に対する、筑波大学附属視覚特別支援学校からの「指摘」に関する件

1. 文部科学省著作教科書についての表現の中で、不適切な部分があった。
2. 互いに協力し、良質な点字教科書作りに努める。
3. 上記の2点を確認し、回答文を作成。

第2号議案 文部科学省に対する要望書の件

「障害のある児童及び生徒の為の教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」の成立に伴い、「点字教科書プロジェクト」を作ることを要望する旨を確認。

・ 事務局からの報告・連絡

今後の取り組みとして、地域の学校に学ぶ、点字教科書を必要とする視覚障害児童・生徒の実態調査を行うことと、「点字教科書づくりのためのプロジェクト」を作ることを文科省に対して求めていると思います。

また、秋には第2回セミナーを開く予定です。テーマ、内容について、意見をお寄せ下さい。なお、会員の方は、メーリングリストに入ることができますので、メーリングリスト上で活発な書き込みをお願いしたいと思います。アドレスがまだの方は、松本までお知らせください。

《平成20年度第2回理事会開催》

平成20年8月30日（土）午後2時～5時

日本点字図書館・3階会議室

発行日：平成20年7月30日
発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会
発行人：田中徹二
連絡先：（社福）日本点字図書館 担当：田中・松本
〒169-8586 新宿区高田馬場1-23-4
Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641
E-mail：matsumotom@nittento.or.jp
振込口座番号：0180-7-262151